

【鳥フル疑い事例発生時の対応】

- 本年10/22、全国の鳥インフルエンザ（鳥フル）対応レベルが「レベル3（最大）」に引上げ。
- 10/24、南島においてアナドリの斃死体・衰弱個体を複数確認。鳥フル罹患の可能性が懸念。
- そこで、観光協会・ガイド・地元行政機関向けに、「鳥フル陰性が判明するまでの渡島自粛」協力依頼文書を環境省から発出。併せて、村・環境省で26日に渡島して、斃死体・衰弱個体を回収。
- 検査キットでの簡易検査で「陰性」が判明したため、島内の連絡網・島内掲示板等を活用して本事案を報告しつつ、鳥類の衰弱・斃死体を発見したら、触らず連絡して欲しいことをアナウンス。
- 内地での遺伝子検査の結果、10/30に「陰性」が確定。島内掲示板等で改めて「陰性確定」を報告。



斃死体回収後の消毒



離島時の器材消毒

島内掲示板での周知

鳥インフルエンザ 南島精密検査陰性



10月24日、南島で20羽弱の海鳥の死体が発見されたことを受け、環境省及び希少連では死体の回収と回収場所の消毒等を行いました。
また、10月30日に本土の専門機関で鳥インフルエンザの精密検査を実施しました。
検査の結果、

鳥インフルエンザの

「陰性」

が確定しました。

本年は各地で鳥インフルエンザが発生し、高い警戒レベルとなっています。
今回の検査結果は陰性でしたが、引き続き野鳥を発見・保護した際はご連絡いただきますようお願いいたします。

野鳥

を見つけたら、



さわらずにご連絡ください

環境省小笠原自然保護官事務所 2-7174
IBOLレスキューダイヤル 080-2035-8078

小笠原希少鳥獣に関する連絡調整部会
(小笠原動物協議会下部)

南島における高病原性鳥インフルエンザ疑い事例への対応について

【本件で明らかになった課題】

- 環境省含む関係機関が「離島における大量斃死」などの事例に対応したことがなかった。
- 現場をパトロールしている環境省アクティブ・レンジャー、林野庁GSS（グリーン・サポート・スタッフ）、東京都レンジャーが、斃死体等の発見時に即座に連絡する連絡網などが存在しなかった。

【現在の対応状況】

- 関係者での連絡網による連絡体制が構築できた。また、環境省は、同様の大規模事案が発生した際に、迅速に回収できるよう準備物・当日のパレーション等を文書として取りまとめた。
- 現場勤務のレンジャーに、全国版の「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル（R7年9月改定 環境省自然環境局）」に従った発見時の対応を依頼するとともに（右図）、発見時の即座の情報共有が可能な連絡体制を構築。
- 鳥フルの流行期間終了（春頃）まで、引き続き警戒予定。

現在、全国的に「対応レベル3」であるため、

【死体】

・「検査優先種1」と「2」（黄色）の種、アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ、オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、ハハジマメグロは、死体が1羽であっても、この連絡網で確認場所を報告する（GPS情報を記録し、投稿する）。

・「3」（水色）は、まとめて3羽以上確認された場合、報告する。

・「5」（緑色。アナドリ含む）は、まとめて5羽以上で報告する。

（着色した種は、小笠原で見られる種です）

【衰弱個体】

・神経症状（震える、首をかしげない）など異常な場合、種に関わらず報告する（できる限り情報を記録し、投稿する）。

検査優先種 1 (19種)

カモ目カモ科	ツル目ツル科
ヒシクイ	マナヅル
マガン	ナベヅル
シジュウカラガン	チドリ目カモメ科
コクチョウ*	ユリカモメ
コブハクチョウ*	タカ目タカ科
コハクチョウ	オジロワシ
オオハクチョウ	オオタカ
オシドリ	ノスリ
ヒトリガモ	ハヤブサ目ハヤブサ科
キンクロハジロ	ハヤブサ
カイツブリ目カイツブリ科	重度の神経症状**が観察された野鳥全般
カイツブリ	
カンムリカイツブリ	

検査優先種 2 (8種)

カモ目カモ科	タカ目タカ科
マガモ	オオワシ
オナガガモ	クマタカ
トモエガモ	フクロウ目フクロウ科
ホシハジロ	フクロウ
スズガモ	

検査優先種 3

カモ目カモ科	チドリ目カモメ科
カルガモ、コガモ等（検査優先種1、2以外全種）	ウミネコ、セグロカモメ等（検査優先種1以外全種）

現場レンジャー連絡網に所載するマニュアル